

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩心会 発行

3年4月現在 会員数
 逗子地区 169名
 葉山地区 254名
 大船地区 46名
 (合計) 469名

3年4月号 (225号)
 発行 者 根岸 岳 萃
 編集 者 中村 愛 岳

松井岳洋先生を偲ぶ

碩心会の発展こそ

御遺訓に応える道

会長 根岸岳萃

平成三年三月一日、九時二十四分、松井岳洋先生ご逝去。

思い出せば昭和三十年、逗子で偉い先生が吟道の指導をしていられると聞き、碩心会に入会して以来の師弟関係。私が今日まで吟道を続けてこられたのも、先生のお人柄に惹かれたからと云えましよう。

練習日には大体、鈴木南泉(篁岳)さんとの二人だけのことが多く、よく長詩を指導され、細部にわたって注意されました。

昭和三十一年になりますと、県下に続々と新しい会が誕生してきましたので、碩心会をもっと大きくするようになると言われ、私が所属していましたが横修庵吟道会(海星会の前身)から、逗子、葉山在住の安川天山、板倉竜風、根岸清岳、高橋碩風さん等、当時無伝の方々に移籍して戴き、昭和三十二年、再発足した時を再建と致しました。

先生はよく拙宅にこられ、夜中の十二

時頃「あッもうこんな時間ですか」と言われ乍ら、一時頃自転車で帰られたこともよくあり、祖宗範のお話や、手紙などもよく見せて戴き、木村先生を知らない私ですが、その先生のお人柄など知ることができました。

松井先生は心から祖宗範に心酔しておられました。岳風流統を学ぶ私達にとつて、松井先生が創立された碩心会に在籍することは最大の慶びに思わなければなりません。

もう松井先生に頼ることは出来ませんが、碩心会がもっともつと発展することが、先生のご遺訓に応えることです。

皆さんと吟道の精進を誓い、先生のご冥福をお祈り致します。 合掌

黄泉の国から

碩心会を見守って下さい

副会長 加藤岳相

松井先生重体の報に、2月27日(水)根岸会長と病院にお見舞いに伺った。先生は目を閉じていられたが「先生加藤です、如何ですか」と言葉をかけると、わずかに目を開かれたが、何か不吉な予感がした。そして翌々日の三月一日(金)9時30分過ぎ、会長からの訃報の連絡に偉大なる先生を失った一抹のさびしさが脳裏をかすめた。

碩心会の創設者として、又初代神奈川

県本部長、更に全国十二万の岳風会の理事長として、87才の高齢まで、苦難を乗り越え、吟道一筋に生きてこられた先生には、只々頭の下がる思いです。

昭和37年頃、碩心会の会員がまだ七、八名位の時、逗子の消防小屋（現在の逗子会館）でストーブに薪を燃やししながら先生の指導を受けたこと、又先生を陣頭に、会員募集の為に、逗子開成高校の柔道場に行つて朗吟したこと等、懐かしい思い出が走馬燈のように彷彿として浮かびます。

碩心会の指導者講習会には、木村岳風先生愛吟の長詩をよく指導され、その吟調から岳風先生のご意志を会得したいと申されておりました。又「田原坂秘唱」の吟調を是非後世に伝えてもらいたいとの事も申されました。

先生、黄泉の国から我々碩心会会員を見守っていて下さい。先生の生前の教訓を胸に、根岸会長を軸として、会員相互の和をモットーに協力して、一致団結して碩心会発展の為に頑張る所存です。

忘れ得ぬ

「朝晴れ」の朗詠の感動

相談役 三井岳雄

顧みますれば三十五年間、言葉に尽くせない吟の、そして吟道の何たるかを指導いただいた私であります。漢文が好

きで、特に漢詩が好きであった私が、海軍の先輩安川氏から松井先生のことを聞いたのは、妻を失い、五人の子供をかかえて、ただ生きること追われていた時でした。

漸く心の支えにしようと決心したのは約一年後のことで、ただ一途に吟の道にのめりこみました。松井先生はお忙しく月二回位であとは根岸先生のご指導でした。松井先生にご指導いただいた吟にはmのマークをつけ、又お教えいただいた吟には、えんぴつでmの印をしていました。テープレコーダーの大きいのを自転車に積み込んで、毎週殆ど無欠席で通い続けました。

特に思い出すのは、初伝早々の頃、藤井竹外作の「芳野」でした。満身の声を振りしぼって、一吟終り疲れて、あーと太息を吐きましたら、松井先生がにこにこされて「三井さんの吟を聞くと聞いているほうが汗が出ますね」と言われ、その月はそれでいいですよと言っている様でした。練習で鍛えた蛮声で、あの詩情豊かな詩をやったのですから冷汗ものでした。

同じ頃、箱根での吟行会があり、お正月だったので先生は、三好達二先生の「朝晴れ」の新体詩を朗詠され、その節調に凄く感動を覚えました。今は亡き根岸清岳さんと、ああだった、こうだった

と、色々研究し、何とか吟じられるようになりました。

指導者講習で教わった新体詩、韻読入りの漢詩・白絹の挽歌に和す、悲恋秘藻の歌等も、その都度プリントして、各教場で及ばずながら、お弟子さん達と一生懸命勉強しました。先生の吟、韻読、新体詩の節調を大切に、声の出る限り勉強させていただきます。

あの健康で摂制家の先生が、心臓が少し弱っていると聞きまして、僅か一年そこそことお亡くなりになるとは、夢にも思っていませんでした。

理事長を辞められてからも、時間の限られた許証の膨大な清書のお仕事、各地に出向かれた講習の数々、まさに心身共に使い果たされました。あの霊前の遺影をしみじみ拝して、まさに吟魂の塊りであり、何と良いお顔だなあと、泌々とお別れをいたしました。

合掌

永遠に脳裏にのこる

「舟艇守の尺八」の詩

参事 小峯岳海

松井先生には昨年暮より健康を損なわれ、心配していたところ、三月一日突然逝去の知らせを受け、只々茫然と致しました。先生にはいつも口癖のように、自分分は21世紀までは頑張ると申され、快方

快方に向かわれてご指導くださる日をお待ちしていたのに残念でなりません。先生との出会いと申しますと、昭和36年20名足らずの会員で、吟友会のご協力を得て、J.R.逗子側の信用組合三階に於いて温習会が催され、先生には結婚祝い詩を朗詠なされ、感激の余り翌年三月入会致しました。

練習日の各目の朗詠には、可でもなく否でもなく、一言「あきないで練習することですね」と言われました。碩心会産みの親、又育ての親として、吟道一筋七十年：吟ずる姿勢の良さ、響きある音調は抜群の一言に尽きます。特に先生には、韻読の発想者として、トッポは「鍛始めの歌」とか拝聞しております。数多く吟じ続け、中でも万人の知る「舟艇守の尺八」は、永遠に吟友の脳裏に残ることと信じます。ご恩返しもできず他界された先生、只ひたすらにご冥福を祈ります。

温情去来

許証部長 中村幸岳

二葉葬儀社斎場が最後のお別れの場と思っていたところ、図らずも総本部学院葬に、格別のご配慮を賜り、参列することができました。白菊に囲まれた遺影はやや左を向き微笑んでいる。目が合わないもので、じっと眺めていると、今にもこ

ちらを向きそうであった。僧侶の読経をうつつ聞いて聞いていると在りし日のこともが走馬燈のように思い出されて、悲しさがこみあげてくる。全国大会の大きなステージでの厳としたお姿、そして日常の端正で謙虚、人間関係における礼儀正しさは比類のないものであった。

私ごとき者にも、心から対応され、恐縮すること度々でした。先生を通じ、本部の仕事のごく一部をお手伝いする光栄に浴しましたが、生来不器用で、未熟者故、気に入らない点多々あったと思います。ある時一枚に朱を入れて下さり「総体的に立棒が右に曲がる習性がありますのでご留意下さい」と注意されましたが、その心遣いに嬉し泣きしたこともありました。

大事な仕事をされている責任感から常に身を持ち、マイペースで周囲に迷惑を掛けられることがありませんでした。先生の如くありたい、いつもそう思い、お陰様で私もここ十数年、風邪を引いたこともありません。

大きな柱を失い途方に迷いましたが、根岸会長が私の身を案じ、色々ご心配下され、今後の方向もようやく定まりました。これからは先生の御心を体し、一層勉強に努め、ご恩に報いたいと思っております。

温情去来：思えば昭和48年、蟬時雨しきりの頃でした。御縁あって先生の膝下に仕えることになりお世話になりましたあれから幾星霜：ほんとうにありがとうございました。

身をもって教えて下さった

「親切」の二字

教務部長 竹石憲岳

私が松井先生に直接個人的にお世話になり、思い出として心に秘めていることがあります。それは昭和47年秋、私が奥伝になった時根岸会長のご推薦で、九段会館の全国吟道大会に出吟した時のことです。

初めてのことで、妻と栃木の戦友の家族とで入場し、やっと席を確保してほっとしていた時、松井先生が席の横を通られたので、立ってご挨拶をしましたところ、よく来たこと笑顔で会釈され、それから出吟の順路、舞台上に立つ位置、吟じ方の方法、吟じ終わってからの退路等、親切丁寧に教えて戴き、その上記念品まで貰って下さり、恐縮した次第です。

お陰で私の独吟「壁に題す」も緊張の中に無事終了し、連れがいたので、早目に退場、みんなで靖国神社を参拝して帰宅しました。

あまり面識もなかった私に、役員とし

てご多忙の中、かくも親切にして下さった先生も遂にご逝去されました。謹んでご冥福を祈ると同時に、身を以て教えて下さった「親切」の二字を、私も生涯を通じて守り通して行く所存です。

心技一体こそ

真の吟道精神……であると

逗子地区長 千葉劔岳
松井先生死去……こんな悲しいことがあってよいものか。思えば思うほど口惜しく、私は眠れない夜が続いた。かえりみれば昨年二月、私は妻の急死に会い、悲しみのどん底におちいり、辛うじて吟道を通じての諸先輩、同輩、後輩の方々の御激励に、そして担当している吟関係業務の忙しさととりまぎれ、やっとのこと一周忌を済ませたばかりであった。さかのぼって昨年の暮、先生が大分弱られたとのことを伺い、御家族にお見舞いの電話を入れましたら、その夜、非常にお元気な声で、先生からの御礼の電話を受けた。それが先生との会話の最後であった。

去る2月22日、亡妻の祥月命日で墓詣りをすませホッとしていたところ、加藤先生から、松井先生のご容態があまり良くないようだから御見舞いととの誘いの電話があり、愛岳先生を交え三人で急馳

病院にかけつけた。何とか病室に入れたものの熟睡されており、遂にお話もできなかったのである。

そして3月1日、私は第二地区の用務で鎌倉中央公民館に向くことになってしたが、胸さわぎが激しいので、岩崎・村田両先生に向かい、一人室内で、快方に向かわれることを祈っていたところ、先生死去の報であった。

同夜急遽常任理事会が開かれ、根岸会長指揮のもと、通夜、告別式等の手伝いの諸方策が検討され、その大筋の通り、野辺の送りが会員一同哀惜のうちに三日に終了した。

思えば昨年二月、私の妻の通夜の席上では、先生から身に余る弔詞を戴き、また私に対しては、今後の生き方について強い激励の言葉を下され、その御高恩に報いたいたいものと、堅く心に期していた矢先、妻の死後、一年とちよつとの間に、鬼籍に入られ、同じ斎場に於いて先生をお送りすることになるとは、夢にも思えなかつたことである。諸行無常とは申せあまりにも悲しい。先生にはもつともつと多々御教え願いたかつた。口惜しい限りである。

先生が日常お話された中で心に残っている言葉……それは、声におぼれた者は真の吟者ではない、上手下手は二の次、心で吟じるものだ。それから心技一体こそ

真の吟道精神である……と。この二つのことは常に自分に言い聞かせて、まがりなりにも自己啓発の資としている。

思い出は尽きません。先生の「天地正大の氣」の吟が聞こえてくるような気がします。

思い出は限りなく……

広報部長 中村愛岳
庭上の一寒梅 笑って風雪を侵して開く 争わず又力めず 自ら百花の魁を占む

梅花咲き匂う三月一日、松井先生逝去。何気なく教本をひらいた私に「寒梅」の詩と岳洋先生のお人柄とが重なりました。この詩は私にとって、今後忘れられない詩となることでしょう。

先生の思い出は数々ありますが、その中から今でも鮮明に浮かぶもののいくつかを書いてみます。それは碩心会再建十周年記念大会を終り、あのなぎさ会館での懇親会の折の事でした。はじめて聞く先生の、歌謡入りの「花の源義経」の強い印象……どちらかと云うと詩吟調の歌謡がまさに内容にぴったり、その後、先生独特の吟……今でも忘れられません。又「田原坂秘唱」も忘れられない詩です。振り付けをしてみても……といわれ、愚作ですが49年11月の葉山町文化祭、54年10月の六浦吟詠会15周年に、松井先生

自らの吟で舞わせていただきました。松井先生が吟じ、私が舞っている写真は貴重な宝ものです。

61年3月、中野サンプラザホールに於て、二千八百余名参加のもとに、創立50周年記念大会が催された時のことでした。式典に於いて、当時理事長でいられた先生のご挨拶：わが碩心会名誉会長でもいられた先生の、温容あふるる中に凜然としたお姿に、私達は誇りと喜びを感じ、感激に涙しました。又その折、席をさがしている私達に、理事長先生自らがお疲れでしょうからと、席をさがしてください、一番良い席をいただきました。今でも忘れられない思い出です。

又私事になりますが、我が家の新築成って間もなく、63年8月15日終戦の日、家を見たいとおっしゃって、暑い中を自転車でお見え下さいました。今思うと84歳の時です。信じられない気持ちです。そしてその折、波の寄せる音、千鳥の曲の入った伴奏入りの舟艇守の尺八の曲のテープをお持ち下さり、「これは私が一番気に入っているものです、聞いて見て下さい」といわれ聞かせていただきました。この度先生が亡くなられ、あらためてそのテープを聞かせていただきましたが、その時のことどもが目の当たりに浮かんで来て、涙がとめどなく出てくるのでした。

思い出はつきませぬ。幸岳共々、私達はひとかたならぬご恩を受けました。ほんとうにありがとうございます。

身近な御指導に感謝と誇り

会計監査 鈴木孝岳

松井先生が亡くなられたと地区長より悲報が入った一瞬、耳を疑い聞き返しました。少しでも良くなればと願っておりましたのに還らぬ人となってしまうました。八十七歳の生涯を吟道に尽くされたご立派な人柄に心から尊敬しておりましたのに実に残念でなりません。私達は身近に先生の熱心な御指導を受けられ感謝し、又誇りにも思っております。先生のありし日の事が思い出されます。温習会の時など、ホールの前列で会員の吟をじっと聞いて下さり、夜の講習会には自転車でいらっしやり、お帰り時など「先生気をつけて下さい！」と叫んだこともありました。あの頃のお元気な姿が忘れられません。

先生にはたくさんの詩吟を教えていただきましたが、私はあの哀調のこもった「田原坂秘唱」が大好きでしたので、先生を偲んでそっと口ずさんでいるうちに思わず熱いものがこみあげてきました。どうぞ安らかにおやすみ下さいませ。

先生の心を心とし吟道に精進

会計部長 矢嶋悦岳

三月一日金曜日、冷たい雨の降る午後でした。突然の訃報に驚きました。その夜急遽常任理事会をひらき、会長先生より指示をいただき、二日の通夜、三日の告別式に、肉親の方々、先生をお慕いする皆様と共に、慌ただしい中にも、しめやかにご葬送させていただきました。

私も吟の道に入り二十余年、先生とは頭を下げ、ご挨拶申し上げるだけでございましたが、滲み出るお人柄、すぐれた吟法家、すぐれた能書家と、尊敬致しておりました。

いつの会でも、先生がお見えになると会が盛り上がり、緊張感が会場いっぱいになりました。私も皆様も、多分そうであつたと思えますが、いらっしやるか、どうかとお姿を目で追ったものでございます。

私の生涯にこの様な立派な先生に、お目にかかり、ご指導いただけたことを倅せに存じます。先生の心を心とし、吟道に精進して参る所存でございます。

「巨星落つ」の感

企画部長 村田澗岳

先生の御病状は如何かと案じる毎日が続いておりましたが、春を待たず三月一

日、静かに大往生をとげられ、死出の旅路に立つて行かれました。

私にとっては、詩吟の神様のような存在で、親しくお話する時は持てませんでしたが、月一度の指導者講習会には、熱心にご指導いただき、又街でお会いした時などは、あの慈愛のこもったお顔で、あいさつに答えていただきました。

八十歳を過ぎて、嬰鑠としていられた先生には尊敬の念と、私もあの様になりたいというも思っておりました。「巨星落つ」の感を深めており残念に思います。

お元気でいられた頃の、全国大会で、県大会で、地区各会での大会には、朗々とした声で吟じられた姿が、今も脳裏にやきついていて、いつまでも忘れる事ができません。先生のご冥福をお祈りして、吟の道に励み、せめてものご恩返しをしたいと存じます。ありがとうございます。

心の中に生き続けられる先生

葉山地区長 沼田義岳

まもなく桜前線の通り暖かい春が来るというのに、それを待たず先生は逝ってしまわれた。あれ程元気で各地を駆け巡っていられた先生が、この世の人でないということがいまだ信じられません。今にも「今晩わ」と指導者講習会に見えら

れるように思います。

「人のなきあとばかり恋しきはなし」という言葉がありますが、人の死ほど人間にとつて大きな心の打撃、空虚さを感じせしめるものはありません。併し先生のお姿はこの世では永遠に見られませんが、私たちの心の中に生き続けていられます。温厚なやさしい心を持って、あの「舟艇守の尺八」をこまやかに説明、指導される先生の、生き生きとしたお顔が目につかびます。心から追慕の思いと、ひたすらご冥福を祈ります。

天命

逗子A・松井教場 草柳武山
ざわめいていた二十余名の音が止み、シーンとなった座敷に、静かな格調の高い吟が始まりました。「白絹の挽歌に和す」を岳洋先生が吟じられているのであります。昭和62年12月の納吟会の事でした。

松井岳洋先生が永眠されました。八十七歳のご生涯の最後の二年間、私共の教室は、まことに恵まれたお近付きを得ました。国から永年の吟道活動に多大の功績を残されたことに対し、木杯を賜与され、又理事長を退任された事から、御息正風先生の教室に、孫を見るお気軽な立場で出席していただいたのであります。吟道に励む者にとつて、遙かに遠い存在

であった先生をお迎えしたのですが、打ち解けられて、よく召しあがられ、碩心会発足の頃のお話等、楽しげに話されました。吟が始まると目を閉じられ聞いてくださったお姿が目につかびます。二年目に、司会が「今年もお元氣な先生をお迎えできました。この会が何回も続くことを祈ります」と申し上げたところ「命は天命であります。ただこの年齢になっても吟が出来ることを思い、吟道に入っ

ていてつくづく良かった」と申されまして、先生から出た、天命という言葉故ハッキリと腹に入った気がしました。「椰子の実」を吟じられましたが「私は暮れになると昔やった長い詩をやってみますが、これもそうで、果たしてつかえずに出来るかな」と申され、見事な吟を披露されました。腹に入った筈の天命の覚悟がもう消えて、未練がましく思った事は、せめてもう一年この会を続けたかった。この事であります。しかし吟道に励む限り、先生の目が届いていることを確信して、この文を終わります。

松井先生に捧げた詩

宇都宮徳風

私は昭和61年6月30日から指導者講習会に出席を許されました。ご承知の通りこの講習会は、碩心会の指導者の連絡の

場であり、特に松井先生がご出席され、私達に直接御指導して下さい。他に類のない貴重な場であり、私も直弟子の一人になれた感激は強烈でありました。

この感激の中で別掲の律詩を作り、私なりに符付して、これを62年3月の指導者講習会にて、研修を前にして、特に松井先生及び根岸会長のお許しを得て自吟して御指導を仰いだのであります。

松井先生は「この詩は褒め過ぎで恐縮です。又符付けは作者の付けたものが一番良いので別に言う事はない」との過分のお言葉を頂き、私の方が未熟にも拘らずあつかましくも披露したことに恐縮して万斛の汗を流した次第であります。

その後、御子息の松井正風先生に吟じて頂いて録音したテープを家宝にしておりました。この度先生のご逝去の報に接し、このテープを聞いて、あの時の先生の御指導を偲んだ次第であります。

青くさい私に対しても、この様に温かく御指導して下さい。私にとつて忘れられない思い出であり「先生ありがとうごさいました」と厚く御礼申し上げます。

頌日本詩吟学院岳風会

理事長 松井洋先生
宇都宮徳風作

師事祖宗承教鞭 研鑽五十有余年

岳風学院経営健 後進会員指導鮮

素読尽磨創韻読 詠吟用是益幽玄

献身弘道常垂範 流統為旁應永傳

祖宗に師事して教鞭を承け

研鑽五十有余年

岳風学院の経営健やかに

後進会員の指導鮮かなり

素読磨き尽くして韻読を創め

詠吟是を用いて幽玄を益す

献身弘道常に垂範

流統は為に旁く應に永えに傳ふべし

岩崎恵岳

柩打つ音に涙す寒き春
冴返る永遠に別れの言葉なく

山口夕岳
春寒や身にふる白き浄め塩
師送る吟声涙の冴えかえる

石渡桂岳
吟道の生涯清し花檣
遺影凜と心にのこるあたたかさ

南部政岳
花そこに見えぬて見ませず逝き給う
噫無情離の節句に別離かな

白井寿岳
韻読をはや春曉の磯の背で
春草の夢吟声は西空へ

佐久間爽岳
ひたすらに寄する追慕の春の波
遠き世に花月を詠じ給ふらむ

後藤道風
大なる師よ安らかに梅浄土
春潮に師の吟声の湧くごとし

長島玉岳
師の遺影仰げばありし日の如く
語りかけくる表情なりき

梅花薫り清しく春の花咲きて

恩師の柩は旅立ち逝けり

練吟
メモ ああ 松井岳洋先生

○県の指導者吟道講座や、お正月などの祝吟として、松井岳洋先生はよく文天祥の「正氣の歌」(五言60句)や、藤田東湖の「文天祥の正氣の歌に和す」(五言74句・これは11分30秒を要する)などを好んで吟じられた。そのほか、碩心会の指導者月例会では、張若虚の「春江花月夜」(七言36句)や、頼山陽の「楠河州の墳に謁して作有り」(七言34句)、「筑後河を下り菊池正親公の戦いし処を過ぎ感じて作有り」(七言36句)などはいずれもご自分がお書きになったものでくわしく講義して下さったことが印象に残る。いつも始めに一気に範吟されるので、終了とともに会場は感動の声と拍手の渦が巻き起こった。

○先生のご講義は、教本の長編ものには言うに及ばず、そのほか数多くの有名漢詩や、各種新体詩風朗詠にいたるまで、ご自分が講義されるものはすべて暗誦しておられた。と言うことは、ご自分が暗記してないような詩文は、会員に指導するようないかなる事はないようであったようである。また、筆者が詩文のコピーを拝見したかぎりでは、先生はコピーを原文を見ないで書かれるまで修練をつまれたものとい

から尊敬している。

○先生に接した方は、これは又見事に、どなたでも、「なんと立派なお方」と称讃してやまない。服装はいつもきちんとされ、お話の仕方が物柔らかで、会員すべてを大事にされるお心遣いがひしひしと感ぜられた。木村岳風先生の伝記を読むと、岳風先生も全くそのようであったらしい。岳風先生が、松井先生を大事にされたのもむべなるかなである。岳風先生は、詩文の扱いの正確を期して、塩谷温博士を頼られたが、松井先生も同様に学院理事長時代は新田大作教授と親交を結ばれた。松井先生の詩吟に対する実力は、新田教授も驚異とともに畏敬の念をいだかれていたようである。

○木村先生の美声は会場の窓ガラスを震わせた。松井先生も同様八十歳を越えても吟声は衰えなかった。そして、両先生とも書をよくされたことがくしくも共通していた。松井先生は先年、吟詠界に尽くされた功績により、叙勲を受けられたことはご承知のとおり。碩心会の創立も名付けも先生。そして岳風流統の吟道精神の実践に徹した松井先生であったが、ついにご逝去。今後吟詠界に二度と先生のような実力者は出るはずがないので惜しんでも惜しみ足りない。ご生前のご薫陶を衷心感謝しつつ。

合掌

常任理事会ひらかる 3月23日(土)
於・逗子会館

- ①平成三年度温習会の計画について
- ②第二地区大会の出吟割当について
- ③墓参吟行会企画進捗状況について
- ④皆伝会の開催について
- ⑤碩心会創立55周年大会の開催について

(入会)

- | | | | |
|-----------------------------------|--------------------------|-----------------------|----------------------------|
| 608 齋藤ミサヲ 葉山町一色一六八一―四 | 610 中村川子 逗子市逗子七二二―二 | 612 会田京子 逗子市桜山八一―一三 | 614 吉村好美 山ノ根 電〇四六八一七二―〇三三二 |
| 609 鈴木千里 横須賀市根岸五二七九―A203 | 611 渡辺恵子 横須賀市西逸見町二二四九 | 613 五味美津子 葉山町下山口一―一七 | 615 鈴木良山 山ノ根 電〇四六八一七二―〇三三二 |
| 607 松井岳洋(死) 逗子A | 609 鈴木千里 横須賀市根岸五二七九―A203 | 612 会田京子 逗子市桜山八一―一三 | 614 吉村好美 山ノ根 電〇四六八一七二―〇三三二 |
| 606 松村松風(死) 星山 電〇四六八一七二―〇三三二 | 608 齋藤ミサヲ 葉山町一色一六八一―四 | 611 渡辺恵子 横須賀市西逸見町二二四九 | 613 五味美津子 葉山町下山口一―一七 |
| 605 内田公山 (大船B) 46823347 小島洋山(堀内D) | 609 鈴木千里 横須賀市根岸五二七九―A203 | 612 会田京子 逗子市桜山八一―一三 | 614 吉村好美 山ノ根 電〇四六八一七二―〇三三二 |
| 604 沼田昭子 (一色B) 587 高橋千恵子(沼間) | 608 齋藤ミサヲ 葉山町一色一六八一―四 | 611 渡辺恵子 横須賀市西逸見町二二四九 | 613 五味美津子 葉山町下山口一―一七 |
| 603 鈴木良山 (山ノ根) | 609 鈴木千里 横須賀市根岸五二七九―A203 | 612 会田京子 逗子市桜山八一―一三 | 614 吉村好美 山ノ根 電〇四六八一七二―〇三三二 |
| 602 松井岳洋(死) 逗子A | 608 齋藤ミサヲ 葉山町一色一六八一―四 | 611 渡辺恵子 横須賀市西逸見町二二四九 | 613 五味美津子 葉山町下山口一―一七 |
| 601 松井岳洋(死) 逗子A | 609 鈴木千里 横須賀市根岸五二七九―A203 | 612 会田京子 逗子市桜山八一―一三 | 614 吉村好美 山ノ根 電〇四六八一七二―〇三三二 |